

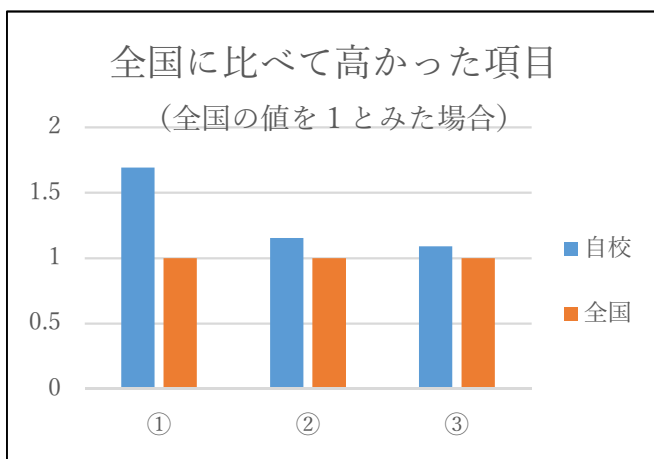
令和4年4月実施

## 6・9年 全国学力・学習状況調査結果及び分析、今後の取組について

### ◆6年 質問紙調査（生活や学習に関する調査）から

【全国の割合と比べて数値が高かった項目】

	調査の項目
①	新聞を読んでいる
②	将来の夢や目標を持っている
③	国語と理科は、解答を文章で書く問題に答えている



さらなる向上に向けた取組

【①】

- ・新聞教育（NIE）を活用した指導法の工夫・改善をはかる。

【②】

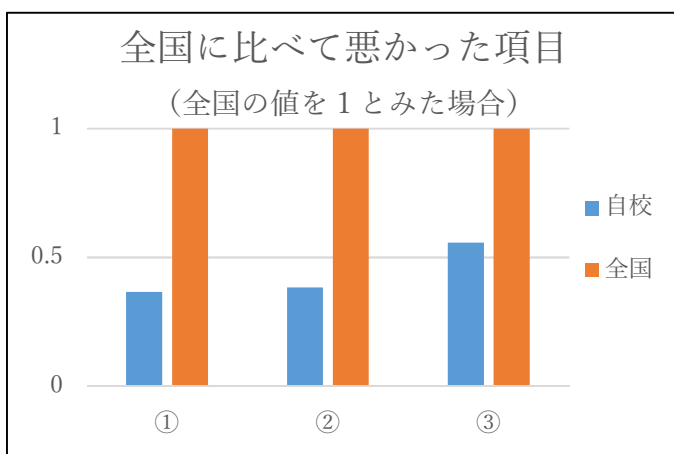
- ・キャリア教育を推進し、夢や目標をもって進路実現をしていくことの意義をしっかりと指導していく。

【③】

- ・書く活動を取り入れた授業展開の工夫・改善を行っていく。

【全国の割合と比べて数値が悪かった項目】

	調査の項目
①	1日あたりのゲーム時間（2時間未満の結果）
②	分からないことをそのまましておかない（あきらめない）
③	自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表している



改善に向けた取組

【①】

- ・ゲームのやりすぎに関する弊害について取り扱い、児童生徒に意識付ける。
- ・家庭との連携を通し、改善を図る。

【②】

- ・児童生徒の質問や意見が活発に行われるような指導法の工夫・改善を図る。

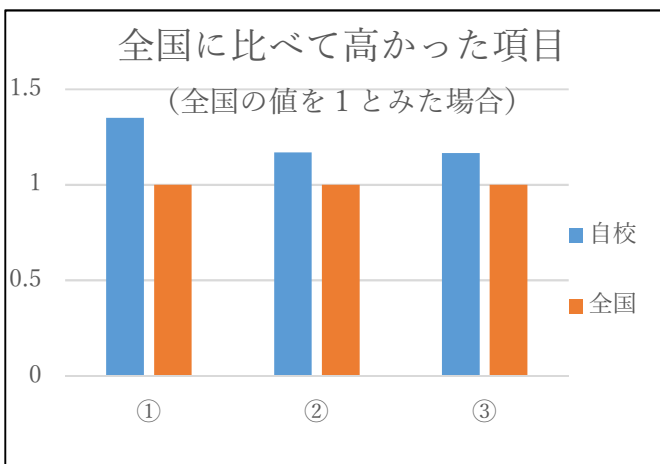
【③】

- ・発表する機会を増やす。
- ・発表する前の机間指導の際に自信ややる気をもたせる支援を行う。
- ・質問タイムを設定し、分からないときの対応スキルを身に付けさせる。

◆9年 質問紙調査（生活や学習に関する調査）から

【全国の割合と比べて数値が高かった項目】

	調査の項目
①	規則正しい起床と就寝
②	友達と協力するのは楽しい
③	学校に行くのは楽しい



さらなる向上に向けた取組

【①】

- ・心身の健康と学習効率の向上につながることを伝える。

【②】

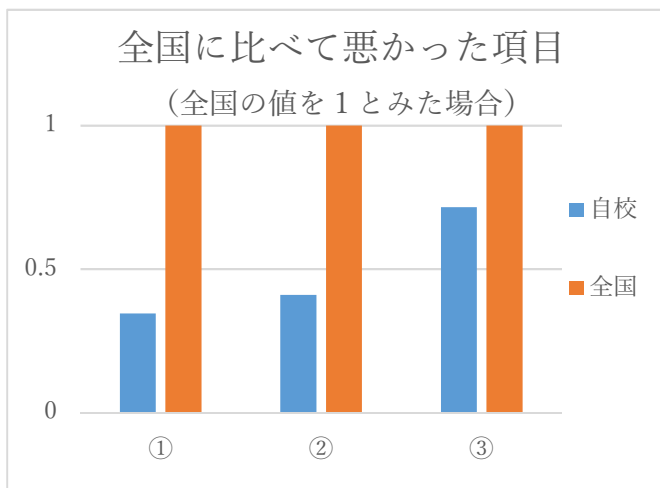
- ・行事や学級活動の中で更に協働的な取組を設定していく。

【③】

- ・引き続き学級の友好的な雰囲気を大切にしながら、別室登校や不登校傾向の生徒が教室に向かえるよう働きかける。

【全国の割合と比べて数値が悪かった項目】

	調査の項目
①	家にある本の冊数（26冊以上）
②	授業におけるICT機器の活用
③	1日あたりのゲーム時間（2時間未満）



改善に向けた取組

【①】

- ・読書習慣を啓発する。
- ・読み聞かせなどを通して、本に親しむ機会を増やしていく。

【②】

- ・情報通信ネットワークなど、情報手段を活用するための研修を行い、適切に学習活動に利用していく。

【③】

- ・携帯（スマートフォン）やゲームの取扱いについては、学校と家庭と連携し、指導を行う。

◆6年 国語科

全体の概要

- ・6年国語科の正答率は、全国平均をやや下回った。
- ・「思考・判断・表現」は、全国を大きく下回った。
- ・「知識・技能」は、全国とほぼ同じであった。
- ・全国と比べて、数値が高かった内容は「我が国の言語文化に関する事項」であった。
- ・全国と比べて、数値が特に低かった内容は「書くこと」であった。

観点	誤答傾向から見える 本校6年国語科の課題	改善に向けた具体的な取組
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○条件に沿ってまとめて書くことができていない。</li> <li>・複数の条件設定を満たす回答ができていない。</li> <li>・「2つ選べ」を1つしか選んでいない。</li> <li>○意見文の構成が理解できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「条件に合わせて書く問題」に取り組ませる。</li> <li>○意見文の読み解き方の練習を行う。</li> </ul>
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し言葉の意味をよく考えずに回答している。</li> <li>○漢字の意味を考えず部首を間違えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前の人を受けて自分の意見を言う訓練をする。</li> <li>○漢字は単体で覚えさせず、熟語や意味のつながりを考えて書かせる。</li> </ul>

◆6年 算数科

全体の概要

- ・6年算数科の正答率は、全国平均とほぼ同じであった。
- ・「思考・判断・表現」は、全国とほぼ同じであった。
- ・「知識・技能」は、全国をやや下回った。
- ・全国と比べて、数値が高かった領域は「図形」であった。
- ・全国と比べて、数値が特に低かった領域は「変化と関係」であった。

観点	誤答傾向から見える 本校6年算数科の課題	改善に向けた具体的な取組
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題意を正しく捉えられていない。</li> <li>○条件にあった説明が不十分である。</li> <li>○プログラミング学習が不十分である。</li> <li>○問題場面を具体的にイメージすることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○条件に合わせて説明する場を授業の中に設定する。</li> <li>○プログラミング教育を年間指導計画に位置付け、計画的に行っていく。</li> <li>○朝の活動や週末課題の取り組ませ方を見直す。</li> </ul>
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容の意味理解が不十分である。</li> <li>○題意を正しく捉えられていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々なパターンの問題に取り組ませる。</li> <li>○生活場面にあった課題設定の工夫を行う。</li> </ul>

◆6年 理科

全体の概要

- ・6年理科の正答率は、全国平均とほぼ同じであった。
- ・「思考・判断・表現」は、全国とほぼ同じであった。
- ・「知識・技能」は、全国を大きく上回った。
- ・全国と比べて、数値が特に高かった区分・領域は「『粒子』を柱とする領域」であった。
- ・全国と比べて、数値が低かった区分・領域は「『生命』を柱とする領域」であった。

観点	誤答傾向から見える 本校6年理科の課題	改善に向けた具体的な取組
思考 ・ 判断 ・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○たくさんの情報を整理できず、題意をつかめていない。</li> <li>○結果を基にした読み取りが正確にできていない。</li> <li>○問題を見出す力が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題解決型の学習を徹底し、その中で情報条件を整理する力を付けさせるような指導法の工夫を行う。</li> </ul>
知識 ・ 技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題意をつかめていない。</li> <li>○問題の解決に必要な情報を取り出せていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大事な部分に線を引かせ、問題を最後まで読み解く力を付けさせるような指導法の工夫を行う。</li> </ul>

◆9年 国語科

全体の概要

- ・9年国語科の正答率は、全国平均と同じであった。
- ・「思考・判断・表現」は、全国とほぼ同じであった。
- ・「知識・技能」は、全国とほぼ同じであった。
- ・全国と比べて、数値が特に高かった内容は「情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」であった。
- ・全国と比べて、数値が特に低かった内容は「読むこと」であった。

観点	誤答傾向から見える 本校9年国語科の課題	改善に向けた具体的な取組
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長文を読むことへの苦手意識があり選択肢にある断片的な言葉に反応してしまい、誤答となっている。</li> <li>○条件に対する理解が低い。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・条件の意図を読み取れない。</li> <li>・複数の条件に対して、すべてをカバーすることが苦手である。</li> </ul> </li> <li>○選択肢の読み取りが不十分であり、一部分だけの正しさを判断している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長文をしっかりと、スピーディーに読むために、語彙指導をこつこつと、読書指導を行う。</li> <li>○様々な問題に対応できるように、発問の工夫、問題演習、テスト返却時の指導などを行う。</li> </ul>
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実技指導の前に行った知識の授業での理解があやふやなまま、実技の授業に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実技と知識を結びつけるため、ポイントを押さえながら実技を行わせる。</li> </ul>

◆9年 数学科

全体の概要

- ・9年数学科の正答率は、全国平均を大きく下回った。
- ・「思考・判断・表現」は、全国を大きく下回った。
- ・「知識・技能」は、全国を大きく下回った。
- ・全国と比べて、数値が高かった領域はなかった。
- ・全国と比べて、数値が特に低かった領域は「図形」であった。

観点	誤答傾向から見える 本校9年数学科の課題	改善に向けた具体的な取組
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○筋道を立てて考える、目的に応じて指揮を変形してその意味を読み取る、結論が成り立つための前提を考えるなど、事柄が成り立つ理由を説明することができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○類題を解かせて、記述問題に慣れさせる。</li> <li>○思考する時間を設けて、試行錯誤しながらじっくり考える時間をつくる。</li> </ul>
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○箱ひげ図が示す散らばりは理解しているが、データの個数がわかっていない。</li> <li>○予想が正しいと思っている。</li> <li>○変化の割合の意味が分かっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○箱ひげ図や変化の割合などが意味することを機会があるごとに確認する。</li> <li>○予想が正しくないことがあることを授業の中で確認する。</li> </ul>

◆9年 理科

全体の概要

- ・9年理科の正答率は、全国平均をやや下回った。
- ・「思考・判断・表現」は、全国とほぼ同じであった。
- ・「知識・技能」は、全国を大きく下回った。
- ・全国と比べて、数値が高かった区分・領域は「『エネルギー』を柱とする領域」であった。
- ・全国と比べて、数値が特に低かった区分・領域は「『地球』を柱とする領域」であった。

観点	誤答傾向から見える 本校9年理科の課題	改善に向けた具体的な取組
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ルートマップとスケッチを関連付けて考えることができていない。</li> <li>○実験方法と結果は関連して考えられているが、実験の目的を読み飛ばしている。</li> <li>○粒子概念で考えるべきところを、生活の感覚で答えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事象を文章でまとめさせる。</li> <li>○必要な情報を選び、考えをまとめ、表現することを通して、学力の向上を図る。</li> </ul>
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○つり合いや気化など、基本的な用語の意味が分かっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○用語を文章で説明させる。</li> <li>○様々な事象の具体的な例を授業で取り扱う。</li> </ul>